

キヤノン株式会社

2024年第1四半期 決算説明会【QAまとめ】

Q1. 第1四半期の実績はキヤノンが想定していたより弱かったと考えているが、どのようにとらえているか。

A1. 少し厳しい第1四半期になったと考えているが、年初からある程度想定していた。イメージングについては、カメラとネットワークカメラで、市中在庫を早期に解消することを目的としセルインを抑えたことで、売上が落ち込んだことが減益の大きな要因となった。その他では、プリンティングでインクジェットとレーザープリンターの売上が中国、欧州の景気悪化の影響で伸びなかった。

Q2. 第1四半期の利益に対する前年からの為替影響 193 億円をセグメント別に分けるとどうだったか。

A2. 影響が大きい順に、プリンティング 125 億円、イメージング 47 億円、メディカル 19 億円となり、残りはその他である。

Q3. 為替レートが円安に進んでいるのに、年間見通しを変更しなかったのはなぜか。

A3. 為替はプラス要因の一つとしてあるが、地政学リスクをはじめ経営をとりまく環境は不透明であり、現在構想が固まってきた構造改革の今年への影響もある事から、様々な要素をふまえて下期に向けた予算を作りこんだのち、アップデートしてお知らせしたい。

Q4. CIPA の好調な月次出荷統計と、カメラの市中在庫が重くなっているという説明にギャップがあるがどうなのか。

A4. CIPA の出荷データは月毎にタイムラグが発生することもあるので完全には連動しない。キヤノンでは、ディーラー在庫の動きを直接確認しており、量販店などにもヒアリングをしながら市中在庫の把握をしている。

Q5. 第1四半期のカメラの売上状況を地域別に教えて欲しい。

A5. 地域別でみると、国内と欧米は落ちたが、中国やその他アジア地域ではプラス成長となった。

キヤノン株式会社

2024 年第 1 四半期 決算説明会【QA まとめ】

Q6. イメージングの減益について、カメラとネットワークカメラの割合を教えてください。またカメラの減益については、台数減だけでなく販促費の増加も要因か。

A6. 減益の割合は、5 割強がカメラで、3 割がネットワークカメラ、残りはその他となっている。カメラの減益は、数量減に加えて販促費増の影響がある。

Q7. イメージングの第 1 四半期の実績をみると、年間見通しはハードルが高くみえるがどうか。

A7. 第 1 四半期に売上が落ち込んだカメラ、ネットワークカメラ共に市場が縮小しているわけではなく、セルスルーは伸びている。セルインを抑えたことで、市中在庫も標準の水準まで落ち着いたと考えており、第 2 四半期以降、ネットワークカメラは従来の 2 桁成長に戻ると考えており、カメラもミラーレスカメラのラインアップ拡充により高付加価値カメラへのシフトを加速させていく。

Q8. イメージングは第 2 四半期以降売上が増加すると説明されたが、その兆しはあるのか。

A8. すでにネットワークカメラは一部バックオーダーが発生しており、カメラについても 3 月までの状況からは上向きになっている。

Q9. 為替影響を除くとプリンティングの第 1 四半期売上は弱かったように見えるが先行きを含めて、どのように考えれば良いか。

A9. プリンティングの第 1 四半期で弱かったのはインクジェットとレーザープリンターで、イメージング同様在庫の影響があったことに加え、中国と欧州の景気悪化の影響を受けた。先行きについては、インクジェットは出遅れていた大容量プリンターを強化し拡販していき、レーザープリンターは出荷調整が一巡してきたため、第 2 四半期以降は売上が大きく増えていく計画である。

キヤノン株式会社

2024年第1四半期 決算説明会【QAまとめ】

Q10. オフィス複合機の第1四半期の売上は、ノンハードが比較的堅調であるものの、ハードは弱かったように見えるがどうか。

A10. オフィス複合機のハードについては、昨年第1四半期は供給制約がなくなり、競合を含め供給量が一気に増えた時期だったため、対前年で比較すると販売数量が若干のマイナスとなったが、心配するような水準ではない。

Q11. プロダクションは、年間の売上成長率と比較すると第1四半期は低かったがどう捉えているか。また第2四半期以降、展示会の効果など期待できるのか。

A11. 新製品を出すこともあり、4年に一度行われる5月の展示会まで、毎回買い控えをするディーラーの動きがあるが、今回も影響が出ていると考えている。ただ、プロダクションは月を追うごとに設置が進んでおり、特に3月の売上が大きく伸びたので、今後期待がもてると思っている。

Q12. オフィス複合機は数量が増えない中で利益が増加している理由は。

A12. 従来から力を入れている生産革新による工場経費の削減や、8系列あったプラットフォームを集約することで、部品や生産の共通化により大きなコストダウンが出ている。また、当社製品の高い競争力を背景にハードの販売を増やしてきており、市場での稼働台数が増えてきていることで、第1四半期のノンハードは堅調であった。

Q13. 事務機の競合他社で再編の動きがあるがどのように考えているか。

A13. 当社は、開発、調達、生産、販売全てで業界トップの地位を保つのに十分な能力を自社で有しており、現時点では他社と連携する必要はないと考えている。ただ状況が変化して将来必要となれば対応をしていく。

キヤノン株式会社

2024 年第 1 四半期 決算説明会【QA まとめ】

Q14. メディカルの第 1 四半期の売上、利益は弱かった印象だが、年間見通し達成に向けて、特に利益の面で、事業革新委員会など、どのように収益性を改善させていくのか。

A14. 第 1 四半期の売上は思い通りにいかなかったが受注は積み上がっており、着実に売上に結び付けていくことで、年間目標は達成可能だと考えている。収益性については、メディカルのオペレーションは非効率な部分はまだあり、まずはこれをキヤノンの総力を結集して改善していく。非効率な部分をなくしていくだけでも相当改善できる見通しが立っている。

Q15. 投資活動によるキャッシュフローについて、前回の見通しから 550 億円増えている理由と、今後の考え方について教えて欲しい。

A15. 前回見通しからの増加は、キヤノンマーケティングジャパンのプリマジェスト社への投資が主な要因となる。今後については投資機会があれば実行し、随時数値に追加していく。投資を自己資金でまかなえない規模の場合は、借入を行う方針である。

Q16. 3 月末で増加した在庫を年末までに在庫回転日数 60 日以下の水準まで削減するということが、主要製品の生産計画についてはどのようになっているのか。

A16. 年末は商戦期の販売増により在庫が減少する時期であるため、年末から 3 月末にかけて在庫が増加するのは例年通りである。特殊要因として、昨年末に部品の購入を後ろ倒した影響があり、今後は生産を減らすというよりは、部品購入を減らすことで在庫削減をする。これらの過剰在庫となっている部品の発注は昨年から止めており、第 2 四半期以降に売上が増大していけば、在庫水準は低下していく。

Q17. 年初に自社株取得の計画が発表されたものの第 1 四半期は実行されていないが、どのような状況か。

A17. 年初から株価が 3 割ほど上昇したため、当初考えていた前提条件から変わってきている。自社株買いを行う方針自体に変わりはなく、条件をあらためて整理して買入基準・方法を変更しようとしており、今後買い入れが開始される予定である。